

平成26年度
新潟市白根北児童館年次報告書

平成26年度の運営総括及び来期の課題

1. 乳幼児事業

(1) 総括

今年度は開館3年目ということで、白根北児童館が周知され始め、南区内だけでなく、西区や中央区、東区からも親子連れが遊びに来てくれました。県外からも、実家に帰郷した際に遊びに来てくれる親子もいました。

北児童館の乳幼児の利用は、0～3歳まで子どもを持つ親子の利用が多く、幼児の親子は午前中の利用数が伸びています。乳幼児期は月齢によって遊び方が大きく異なるので、児童館では年齢で区切ったイベントを実施しています。対象を明確にすることで、遊びの幅を広げることや保護者同士のつながりを強めることができましたと思います。特に乳児の保護者は、家庭で子どもと二人きりで過ごす時間が多く、子育ての不安や孤独を感じ、孤立しがちです。地域の中で、保護者同士の交流・学び・支えあいの場として、親子が安心して集まれる居場所になってきているのを感じます。児童館で保護者同士をつなぎ、情報交換や会話を楽しんでリフレッシュしてもらうことができていると思います。

① いちごタイム

今年度も毎週火曜日の10時30分から乳幼児の定例イベントとして、『いちごタイム』を開催しました。『いちごタイム』は入園前の幼児を主対象としていますが、月齢の低い乳児の親子もイベントの雰囲気を楽しみに参加できるように配慮しています。昨年度から引き続き利用してくれる2歳児の子どもの参加が多くみられました。また、以前に利用していた親子が、第二子を産み戻ってくる姿も見られました。イベントには南区以外からの参加もあり、西区や東区といった地域からの参加もありました。

『いちごタイム』の内容は、今月の歌・手遊び・親子体操・紙芝居・パネルシアター等で、楽しい雰囲気で開催しています。また、担当する職員によってリズムあそびを取り入れたり、体を動かすアスレチックあそび等を行ったりと内容もさまざまです。毎回参加することを楽しみにしている親子もいます。遊戯室は広く、夏は涼しく、冬は温かいので気持ちよく遊べ、職員も参加しやすい雰囲気づくりを大切に運営しています。参加者の多くは母親が子どもを連れて来て来ていますが、最近では、父親や祖母父などさまざまな世代の大人が子どもを連れて参加してくれています。

② つくって遊ぼう

毎月第4木曜日の午前中に簡単な工作イベントを実施しています。親子で一緒に工作を楽しむ事を目的として実施しています。ある程度の年齢に達していないと工作は難しいので、幼児でも楽しめるように、シールを貼る、絵を描く作業を中心に行っています。保護者が作り、子どもが装飾するというイメージで行っています。

『こいのぼり』や『七夕飾り』、『おひな様』等の季節のイベントに合わせた工作を行いました。材料は牛乳パックや画用紙等利用し行っています。

参加した利用者からは、「製作した作品を使って、家ではこんな風に遊んでいます」と様子を聴いて、私たち職員も喜びを感じています。

③ コアラタイム、パンダタイム

絵本や紙芝居等を年齢別に行うイベントとして、0、1歳児を対象とした『コアラタイム』を第1木曜日に行い、2、3歳児を対象とした『パンダタイム』を第3木曜日に開催しました。対象を明確にすることで、年齢に見合った教材が選びやすく、情操を育むことができるようになりました。参加する保護者も同じ年齢の子どもが集まることで、気軽に保護者同士が会話をし、育児の情報交換ができることが人気のようです。

④ ラッコタイム

昨年度から実施し、人気イベントとなっている『ラッコタイム』。今年度も7月と8月に夏季限定の水遊びイベントとして、多目的広場で開催しました。ラッコタイムでは、大きいビニールプール1つと中くらいのビニールプールを用意し、2か所で遊べるように設定し、開催しています。

『ラッコタイム』は、子どもの膝下程度の水量で、ぞうさんのジョウロやひよこのおもちゃ、スコップ等のおもちゃで遊べます。イベントは10時30分から11時30分の1時間、好きな時間に自由に参加できますが、子どもの体力を考え遊べる時間を1組30分の利用に設定しています。毎回5組を超える親子の参加でイベントは賑わっていました。残念なのは、台風や雨の日が多く、実施できないことが多かったのが残念でした。今年も天候に左右されてしまうイベントの難しさも痛感させられました。

⑤ ホット・ほっとタイム

毎月第2木曜日に子育てを行っている保護者を対象とした『ホット・ほっとタイム』を開催しています。イベント名になっているように、子育てを行っている保護者に少しでもホッと一息つける時間を持ってもらいたいと思い、実施しています。内容は、一息つくためのコーヒーや紅茶を参加者同士でお喋りしながら飲んでいきます。参加者達から好評で、イベントを楽しみに毎月10組以上の参加者が集まっています。

⑥ ちびっこ運動会、ミニミニ運動会

昨年度の同様に、5月にちびっこ運動会、11月にミニミニ運動会を開催しました。乳幼児期の成長は驚くほど早く、半年でハイハイしていた子が歩けるようになり、歩いていた子は走れるようになります。子どもの成長によって参加できる種目や競技が異なるので、幼児期の子どもの成長スピードを考え、昨年度から年2回運動会を開催しています。幼児期は一人あそびが多く、周りの子どもと一緒にあそぶ集団あそびの経験が乏しいです。運動会ではかけっこや、チャレンジゲーム等の種目を行います。子ども同士の競争はせず、体を動かす経験や集団遊ぶ経験を目的として行っています。参加してくれた子どもたちは、いつもと違う児童館の雰囲気戸惑う子どももいましたが、笑顔いっぱい楽しんで参加してくれていました。

また、今年度もイベントを日曜日に開催することで、多くの参加者が父親や祖父母と一緒に参加でき、家族全員での参加できるイベントとなっているので保護者からはとても好評でした。

⑦ BP講座（ベビープログラム）

2月の第3週水曜日から4回、水曜日の午後にBP講座を開催しました。生後2か月から5か月までの第一子を持つ母親を対象としたイベントです。親子15組の参加があり、毎回出産や育児についてテーマを設け、参加者同士で話合いました。BP講座では、「子育てに悩んでいるのは一人じゃないよ」と、悩みを解決するのではなく、みんなで共有します。初回は表情の硬

かった参加者が回を重ねるごとに明るくなり、近くにいる参加者と楽しく話せるようになりま
す。講座終了後は、「今後も繋がりたい!」、「また会って話したい!」という言葉が聞かれ、
一人の参加者がまとめ役となり、講座とは関係なく次回も会う約束をしています。今後、参加
者達がまとまりサークル化していくのかは解りませんが、見守っていきたいと思っています。

⑧ 移動児童館

今年度は幼稚園・保育園に出向き実施する活動と、児童館の活動を地域に知ってもらう広報
活動の手段として移動児童館を実施しました。保育園・幼稚園の活動としては、9月に大通保
育園4歳児クラス、10月には大通保育園3歳児クラス、2月に根岸保育園、大鷲保育園と南
区北部地域の3つの保育園を回らせて頂きました。

移動児童館は、児童館から職員が保育園や生活センター、公民館に出向き、園児向けのイベ
ントや小学生向けのイベントを開催します。今年度の内容は手遊びや体操を行った後に、カプ
ラを使ったワークショップを行いました。カプラは3,000ピースを持参し、クイズ形式で問題
を出しながらカプラの知識を学び、『ねる、おきる、たつ』の基本の置き方を教えます。そこか
らは、年齢に合わせたプログラムを約30分から40分間行います。

移動児童館は、児童館を知ってもらうこと、児童館職員とふれあうことを目的として開催し
ています。参加し体験してもらうことで、子ども達に児童館を身近に感じてもらい、児童館を
気軽に利用してもらえのではないかと考えています。

⑨ バスでお出かけ

10月に、きたもんクラブさん主催で『バスでお出かけ』を開催しました。きたもんクラブ
さんは、南区北部地域の子育てボランティア団体です。メンバーは児童館の行事にもボランテ
ィアとして参加してくれています。

行先は山ノ下みなとランドを予定していましたが、当日の天候が雨となり雨天案の動物ふれ
あいセンターに変更となりました。生憎の天候になってしまいましたが、親子9組23名の参
加でバス1台を貸切り、バスの中で音楽遊びやペープサートを楽しみながら現地に向かうこと
ができました。ふれあい坊物センターでは、動物のえさやり体験し、動物とふれあいました。
食後は隣接している創造センターの遊具で遊び児童館に帰館しました。

(2) 来期の目標・課題

西区、中央区、東区といった新潟市内から利用者が来館してくれています。利用者同士の繋
がりや、口コミで利用者の輪が広まっているのを感じています。さらにより多くの利用者から
来館してもらうために、児童館情報を南区内だけでなく、西区や中央区、東区の子育て施設に
も利用案内や月のお便りを発信していきたいと思えます。

利用者は児童館で開催しているイベントを楽しみにしてくれています。来期は利用者のニー
ズを、アンケートを実施することで把握し、利用している親子が興味のあること、気になって
いることを中心に、保護者にも子どもにも楽しいイベントの企画を考えていきたいと考えてい
ます。親子であそびを楽しみ、子どもとふれあってもらうことや、利用者と職員の関係を深め
ること等を考えイベントを運営しています。昨年度もおこなってきた親子の関係を深めてもら
うこと、利用者同士が繋がれることを引き続き目標にし、そこから利用者自身が主役となり、
一緒にイベント準備や運営をおこなっていきけるような利用者を育てていきたいと思えます。

① 保育園・幼稚園向けのイベント開催

乳幼児の来館状況は未就園児の利用が多く、0～3歳児が幼児の来館者の主流となっています。3～6歳児の利用は、保育園や幼稚園帰りの利用、土・日・祝日に母親や父親と一緒に来館する姿が見られました。来期も幼児の利用が土・日・祝日にもあることから、運動会のように休日に幼児向けのイベントを引き続き企画していきたいと思っております。

また、幼児向けのイベントを保育園児・幼稚園児向けイベントとして、移動児童館に引き続きチャレンジしていきたいと考えています。

② 子育て支援講座の開催

今年度も外部から講師を招き、BP講座やベビーマッサージ、再就職支援講座等を開催しました。講座を開催することで、少しでも育児の不安、ストレス等が解消できればと考えています。また、利用者同士が講座に参加することで仲間意識を持ち、繋がってほしいと考えています。さらに児童館では、親たちが自ら学びあい、子育てを楽しみ、父親も子育ての輪に入っていける取り組みを行うことができると考えています。子育て中の保護者だけでなく、子育て支援者を地域から育成し、地域全体で子どもを育てるという意識の高い地域作りを行いたいと考えています。そのために、開催する講座には地域の住民やボランティア団体のメンバーにも声掛けを行い、地域参加型の講座を開催したいと考えています。

2. 小学生事業

(1) 総括

今年度の小学生の延利用者人数は、5750人と今期も来館者のカテゴリーで一番多い利用者数となりました。夏休みや冬休み等の長期休みには毎日のように遊びに来てくれる小学生も多くなります。子どもたちの生活の中に児童館が根付いてきているのを感じています。

昨年度から小学生の授業時間が延び、子どもたちの帰宅時間が遅くなっています。平日は学校から帰宅し児童館に遊びに来ると、遊ぶ時間が30分もない日が多くあります。冬になれば、16時でも外は真っ暗になり、遊びに来るのが難しい状況となっています。

そんな状況の中、私たち職員は子どもたちと触れ合う時間が減ってきている環境の中、子どもたち一人ひとりの思いを受け止めることを大切にしています。子どもたちのさまざまな声に耳を傾け、一緒に笑ったり、喜んだり、真剣に考える時間を重ねてきました。子どもたちは、職員に会うことや会話をすることを楽しみに来館してくれる子も見られます。子どもたちとの信頼関係を築くことで、児童館が単なる遊び場になるのではなく、子どもたちが安心できる居場所になると考えています。

① 毎月のメイン行事

『ドッジボール大会』、『バドミントン大会』等のスポーツ大会、『ハロウィンを楽しもう』、『クリスマス会』、『七夕コンサート』等の季節のイベント、『夏まつり』や『3周年祭』、『卒業進級お祝い会』等のお祭りイベントを児童館の目玉行事として、毎月1回開催してきました。メイン行事を行うことで、子どもたちが『児童館』に足を運ぶ機会を増やしたいと考えています。また、子どもたちにはイベントに参加するだけでなく、イベントを企画し作り上げる楽しさを味わってもらいたいと考え、子どもたちがイベントに参画できるように配慮していきたいと考え、子ども達から意見やアイデアを聞き、積極的に取り入れてイベントを開催していま

す。イベントの企画準備から関わってもらうことで、達成感や成功体験等を同時に経験できるようにしています。

② わくわくタイム

毎週月曜日の16時30分から遊戯室や多目的広場で、ドッジボールやサッカー、シャボン玉、チョークあそび、おにごっこ等のさまざまな集団遊びを行いました。わくわくタイムでは、1年生から6年生までの異年齢の子どもたちが一緒に遊びます。低学年の児童に対しては、職員が積極的に関わり、子どもたちが楽しんで遊べるように配慮しています。高学年の児童に対しては体を動かす楽しさ、集団遊びから友だちの大切さ、低学年への思いやり等を培います。

子どもたちからは「今日はわくわくタイムないの?」、「次のわくわくタイムでは〇〇がやりたい!」等の声がきかれます。子どもたちは、みんなで遊べる『わくわくタイム』を楽しみに来館しているのを感じます。

③ つくってあそぼう

工作イベントとして、毎月第4土曜日に『つくって遊ぼう』を開催しました。工作イベントでは、身近な素材を使った工作遊びを通じて、物を作る楽しさ、作ったものであそぶ楽しさを知ってもらいました。また、活動に応じて道具の使い方等も学習できるように配慮しています。

今年度は『クリスマスリース』や、牛乳パックで作る『キューブパズル』、『プラ板工作』等の工作を行いました。各回定員を8名の予約制で実施しています。予約制にすることで、子どもたちが保護者にイベント日に遊びに来館できるかを確認したり、時間を見て遊びに来たりします。予約制からは約束を守る、時間を守る等の社会性を学んでほしいと思っています。

④ 移動児童館

10月に大通りコミュニティ協議会の文化祭に移動児童館として遊びのブースを出展させて頂きました。今回は『どら焼きぱっくん』というどら焼きに見立てた手作りフリスビーを的の中に入れる遊びとカプラに触れて遊べるブースの2店を出展させて頂きました。

地域のイベントに移動児童館として参加することで、子どもたちだけではなく、地域の人たちに児童館もの活動を伝えることができます。地域の方々にも児童館を知ってもらうことで、さらに児童館を身近に感じてもらうことができるのではないかと考えています。

(2) 来期の課題

① 子どもたちと一緒につくる児童館

本年度も職員が子どもたちの中心になり、イベント企画や進行を行ってきました。子どもたちにイベントや遊びを通じて、児童館を楽しんでもらえたのではないかと感じています。来期は、子どもたちがイベントや遊びに参加するだけでなく、子どもたちだけで遊びを発展できるように、コーディネートしていきたいと考えています。

子どもたちを『育てる対象』として捉えるのではなく、子どもたち自身を『育つ主体者』として位置づけ、関わっていききたいと思っています。そのために、遊びや活動、部屋やスペース(環境)について話し合う『子ども会議』などの企画をより充実していきます。子どもたち自身でイベントを運営することを大切に、自分たちでイベントをつくっていくプロセスを大事にしたいと考えます。

② 農園から食育へ

農園で野菜を作り始めて3年目を迎えました。今年は子どもたちと一緒に、『食育』をテーマに野菜作りを行いました。野菜の苗を植えるところから参加してもらい、『苗を植え、水を与え、収穫して食べる』までの一連を体験しました。春に植えた野菜を夏に収穫し、収穫祭としてカレーを作り、幼児の親子や小学生と一緒にカレーライスをいただきました。普段野菜を食べない子どもたちも、自分達で収穫した野菜を使うことで野菜を「おいしい!」と言って、食べてくれました。スーパー等で野菜を買って食べるのは簡単ですが、自分達で苦労して作った野菜を収穫し味わうことで、野菜本来の味を知ることができるのではないかと考えています。

来年度も引き続き、子ども達に農園での作業を通じて、『食』に興味を持ってもらい、日頃の食事に対する感謝の気持ちやありがたさについて考えてもらいたいと思っています。

3. 中学生・高校生事業

(1) 総括

中学生・高校生の1日当たりの平均利用者は、約6名でした。平日は部活動や塾などの理由から来館できない生徒が多いので、土曜日と日曜日中心の利用となりました。

児童館に遊びに来る中学生・高校生は、部活動のグループでの来館が特徴です。今年度は、バドミントン部員の女子が来館し、遊戯室でバドミンントンの練習を行っている姿が多く見られました。

小学生と一緒にトランプやウノを一緒に行ったりしながら、面倒を見てくれる中学生・高校生も多くいました。そのため小学生たちから、中学生・高校生のお兄さんやお姉さんによく懐いています。小学生が、「今日は中学生のお兄さんは来ないの?」と一緒に遊ぶことを楽しみに来館することもありました。職員は18時以降中学生・高校生と一緒に遊びながら、悩みを聞いたり、アドバイスをしています。中学生・高校生にとって、児童館は単なる遊び場ではなく、『居場所』として考えてくれているようです。

多感な中学生・高校生にとっては、この『居場所』としての機能が児童館としては大切だと考えています。児童館のP・Rを行い、中学生・高校生の来館を促進して、彼ら彼女らの悩みを聞きながら、『居場所』を確立していきたいと思います。

(2) 来期の課題

① 中学生・高校生イベントの発展

中高生向けのイベントとして、中高生向けシアターの開催、スポーツ大会の実施を行いました。昨年同様にグループでの参加が多く、イベントを通して中学生や高校生同士が交流する場面が見られませんでした。来年度はイベントを行うことで、中学生・高校生のグループ同士の交流が行われ、児童館が中高生の交流の場となり、友だちの輪が広がればと考えています。

② ボランティア実習の受け入れ

今年度は夏まつりや3周年祭のイベントに遊びに来てくれた中高生が、積極的に職員の手伝いを進んで行ってくれました。日程が合えばボランティア活動を快く受けてくれます。し

かし、今の中高生は学校生活の他にも部活動、学習塾など時間に追われる日々を過ごしています。そこで、手伝ってくれた高校生に白根北児童館ボランティアバンクに登録をしてもらいました。イベントの企画の段階から一緒に参加してもらい、イベントを実施していきたいと考えています。

また、昨年度に引き続き学習館で実施している職場実習やボランティア実習の受け入れ先として登録を行いました。学習館に中学生・高校生のボランティア参加申し込みがなく、受け入れを実施することができませんでした。来年度も受け入れ先として登録を行い、中学生・高校生と児童館の接点をさらに増やしていきたいと考えています。